第７－４号

耕人

『耕人塾』
塾長　木村　民男
平成30年8月4日（土）

「主体性」と「楽しさ」について

第７期『耕人塾』活動のコンセプトを「主体性」と「楽しさ」に設定し、これまでも何度か触れてきました。今回は、「主体性」と「楽しさ」の大切さについて述べたいと思います。

「主体性」とは、ある活動や思考などをするとき、自分自身の意志や判断に基づいて行動を決定しようとする態度のことです。物事を進んでしようとする「積極性」とも似ていますが、「主体性」は自己の意志や判断がより強く求められます。『耕人塾』では「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」の実践活動をしていますが、どのような気持ちや態度で実践するかということがとても大切です。「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」を仕方なくやるのと自ら進んでやるのとでは、その内容が全く違ってきます。塾生一人一人がどのような気持ちや態度で実践するのかという指針として**「＋1（プラスワン）」**をそれぞれに考えてもらったのもそのためです。「主体性」を発揮するために「＋1」を意識することで、今年度の活動が見違えるように活気に満ちてきました。塾生の皆さん一人一人が自らの意志で進んで行動するということは、「自分を耕す」ことであり、その輪が回りにも広がっていき、「他の人をも耕す」ことにつながるのだと思います。

「楽しさ」とは、読んで字のごとくですが、どんなに良いことでも義務的にやったり嫌々やったりするのでは自分のためにもならないし、他の人の心を動かすこともできません。せっかく「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」を実践するのですから、楽しんでやらないともったいないと思います。いつも実践活動に積極的に参加しているＡ君に楽しんでやるためにはどうすればよいのかをたずねたところ、「**明るく、元気に、喜んでやる**ことだと思います。」と答えてくれました。意識して明るく・元気に・喜んで実践することによって「楽しさ」が生まれてくるのかも知れません。

また、「楽しさ」とは、他から与えられるのではなく、**自らつくり出していくもの**だとも思っています。これからの『耕人塾』の活動の中で、塾生一人一人が「主体性」をどのように発揮し、「楽しさ」をどうつくり出してくれるのか、とても楽しみです。

「蜂と神さま」（金子みすゞ）の詩から

ハニーファーム代表理事の船橋康貴さんは「ミツバチは一つの箱に二万匹が一緒に生活し、『自分が』『自分が』という我の世界が一切なく、絶対調和の集合体として存在している」と言っています。その中で、金子みすゞの「蜂と神さま」という詩を紹介しています。**「蜂はお花のなかに、お花はお庭のなかに、お庭は土塀のなかに、土塀は町のなかに、町は日本のなかに、日本は世界のなかに、世界は神さまのなかに、さうして、さうして、神さまは、小ちやな、蜂のなかに。」**船橋さんは「小さな生き物の中に神を見いだしているだけではなく、ミツバチを起点にして地球上の生命体が一つに繋がっていることまで謳っている」と言っています。「サムシング・グレート」でも述べましたが、生命の奇跡や生命体の微妙なバランスの中で私たちは生かされているのですね。だからこそ、自分を大切にし、他のものをも大切にするということが大事なのではないかと思います。『耕人塾』で取り組んでいる「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」活動もその一つです。